

◆平成30年度の食育推進計画推進に係る取組状況【県以外の主体の取組状況】

I 望ましい食習慣の形成に向けた食育の推進

施策	皆さんに期待すること						取組状況	補足(委員)
	家庭	幼稚園・保育所	学校	地域	食品関連事業者	市町村		
1 幼児等の健全な食習慣の形成	・毎日、朝食を食べる(準備する)習慣を身に付ける。 ・「早寝・早起き・朝ごはん」を実践する。 ・家族全員又は誰かと一緒に食卓を囲み、楽しい会話をしながら食事をする機会を作る。 ・一日に2回は、主食・主菜・副菜が揃った食事を食べる(準備する)よう心がける。 ・自分の歯で何でも噛めるように口腔の健康を保ち、よく噛んで食べる習慣を身に付ける。 ・学校が開催する給食交流会などの食に関する行事へ参加する。 ・学校が実施する食生活に関する取組を参考に、健全な食生活を実践する。	・子どもの食への興味と意欲や望ましい食習慣を育成するための取組を実施する。 ・家庭に対する食生活に関する相談や助言を実施する。 ・家庭や地域に給食を試食する機会を提供する。 ・子どもの口腔の健康づくりを行い、よく噛んで食べる習慣の形成に取り組む。 ・「早寝・早起き・朝ごはん」の形成に取り組む。	・学校教育活動全体を通した児童生徒への食に関する指導を実施する。 ・家庭に対する啓発活動、食育に関する様々な情報を提供する。 ・子どもの口腔の健康づくりを行い、よく噛んで食べる習慣の形成に取り組む。 ・「早寝・早起き・朝ごはん」の指導を実施する。	・歯科医療関係者等による口腔の健康づくりの実施により、自分の歯で何でも噛めるように口腔の健康を保ち、よく噛んで食べる習慣の形成・維持に取り組む。 ・近所等に健康的な食生活に関する情報を提供する。 ・学校が開催する給食交流会などの食に関する行事へ参加する。	・飲食店での栄養成分表示を積極的に進める。	・乳幼児健診や各種事業を通じた子どもの健康と食に関する相談体制を充実する。 ・子育て世代(20～40歳代)が参加しやすい方法による健康や食に関する各種教室を積極的に開催する。 ・食生活改善推進員を養成する。 ・歯科医療関係者等と連携して住民の口腔の健康づくりを実施し、自分の歯で何でも噛めるように口腔の健康を保ち、よく噛んで食べる習慣の形成・維持に取り組む。	【事業者団体等】 ・食育に関する講演会の実施。 ・親子料理教室、食育教室の開催。 ・歯科医師会等の歯科関係団体が行政、学校その他の保健医療団体、8020サポーター等と連携し、地域において「歯と口の健康」、「噛むことの大切さ」を啓発。 ・食生活改善推進員団体、栄養士会等が地域において適量・適塩等の健全な食生活の定着に向けて啓発を実施。 ・栄養士会において子育て栄養相談、親子で学ぶ食育講座を実施。 ・岩手県食育推進ネットワーク会議において、保育所を訪問し、乳幼児期からの食育の必要性を伝える食育普及啓発キャラバンを実施。(県と共催) 【教育振興運動】 ・子ども、家庭、学校、地域、行政の役割と責任を明確にし、互いに連携しながら地域の教育課題解決のための取組を実施。 食育推進の取組事例 「三世代交流もちつき大会」(盛岡市) 「米作り活動」(北上市) 「みずき団子作り」(普代村) 「無添加ヨーグルト作り」(二戸市) 「親子料理教室(バランスの良い食事)」(軽米町)等 【市町村】 ・乳幼児と保護者を対象に食に関する相談、手作りおやつ作り教室、離乳食講座等を開催。 ・「朝ごはんをしっかりと食べましょう」パンフレットの配布、朝食の大切さの講話を実施。 ・食育講座(栄養士の講話、妊娠・出産期の食事のポイント等)、ヘルシー栄養教室等を実施。 ・かみかみ週間の実施、歯磨きシアターの実施。 ・企画図書展「健康も 楽しい食事も いい歯から」、「歯と口の健康相談会」を開催。 ・学校で栄養教諭等による食育授業を実施。	「古館保育所(各幼稚園・保育所)」として、 ・食育普及啓発キャラバンに参加し、食べることの大切さ、健康な体づくりにについて興味を持たせたり、歯科医による歯磨き指導を受け、口腔健康の大切さを知らせた。 ・誕生会に保護者を招待したり、祖父母参観で給食体験を実施している保育所もある。 ・離乳食や幼児食に移行する大事な時期に「かみかみごっくん」できるよう個別に介助している。また、食材の形状を変え対応している。 ・幼児期になり噛めない子や、噛まないで食べる子には個別に声かけをして促している。 ・早寝・早起き・朝ごはんの大切さを参観日等の行事の時に話したり、食事だよりで周知していく。 「いわて生活協同組合」として、 ・子育て中のママ達が楽しく学べる企画を開催(料理教室、離乳食試食、キャラ弁教育) ・長期休みの園児・小学生対象に「キッズクッキング」を開催 ・親子産直見学や野菜、果物の収穫体験を企画
2 小学生・中学生・高校生の健全な食習慣の形成								
3 生涯にわたる健全な食習慣の形成								

Ⅱ 食の安全安心を支える食育の推進

施策	皆さんに期待すること						取組状況	補足(委員)
	家庭	幼稚園・保育所	学校	地域	食品関連事業者	市町村		
1 食の安全安心に関する知識の普及と理解の増進	・リスクコミュニケーションへの参加に努める。 ・食品表示や食中毒、食物アレルギーなどの食の安全について学ぶ。	・給食の時間や家庭科など関連する教科等の時間において、食品表示や食中毒、食物アレルギーなどの食の安全について学ぶ。 ・食品の生産、製造・加工、流通・販売に関して学ぶ。 ・リスクコミュニケーションへの参加に努める。			・リスクコミュニケーションへの参加に努める。 ・食の安全安心の確保に関する情報を分かりやすく、適切に提供する。 ・施設見学などの実施を通して、食品の生産・製造・加工、流通・販売の仕組みなどの食の安全安心に関する学習を支援する。 ・食品に関する情報提供を推進する。 ・食品表示を適正に行う。 ・関係法令の順守及びトレーサビリティに必要な取組(牛肉・米穀等の取組情報の記録・保存及び産地情報の伝達の実施)を行う。	・消費者に対し、食品表示や食品衛生等に関する普及啓発を行う。	【事業者団体等】 ・食品適正表示推進者養成講習会(食協主催)を受講(1回・32人) ・小学生を対象に、鶏肉の飼育から製品に加工するまでの過程の学習と工場見学を実施。 【市町村】 ・食の安全安心(食品表示等)に関する講習会を開催。	「古館保育所(各幼稚園・保育所)」として、 ・増加する食物アレルギーの児童に個別対応をしている。また、食に対する相談事業や個別指導等で保育士と栄養士、調理師が一緒に対応している。 ・職員間でアレルギーの研修を実施し知識を深めている。 「岩手県消費者団体連絡協議会」として、 ・岩手県消費者大会で食の問題を考える分科会を開催 【テーマ】 「日本のお米が食べられなくなる?～タネから食を考える」 【話題提供】 荻原武雄さん(いわて食・農ネット会長) ・学習講演会を開催 「新たな遺伝子操作技術～ゲノム編集」 【講師】 印 鑰 智哉(いんやくともや)さん (日本の種子を守る会事務局アドバイザー) 「岩手日報社」として、記事の掲載を通じて食の安全安心、食育への関心・理解を深めることに努めている。 【主な掲載記事】 ・2018/7/5付 「コンビニ食 健康志向／添加物を削減 食物繊維2倍」 ・2018/8/25付 「コメ検査『農薬助長』 秋田 見直し求める動き拡大」 ・2018/10/15、22付 「見て触れて いわて・チキン 食育交流」事業 ・2018/12/16付 「給食 栄養維持に苦心／材料高騰、予算を圧迫」 このほか、学校の田植えや稲刈り、野菜収穫などの記事掲載を通じた啓発。 (計59件)
2 食品情報の提供と食品表示の適正化の推進	・食品表示を有効活用する。 ・牛肉・米トレーサビリティ制度により伝達された産地情報を、商品選択の参考とする。							

Ⅲ 食料供給県としての特性を生かした食育の推進

施策	皆さんに期待すること						取組状況	補足(委員)
	家庭	幼稚園・保育所	学校	地域	食品関連事業者	市町村		
1 農林漁業体験などを通じた生産への理解の増進	・生産現場の体験や生産者との交流により、農林水産業に対する理解を深める。 ・四季折々の家庭行事などで郷土料理や行事食をつくり、楽しく食卓を囲む。 ・県産食材や地元で取れる季節の食材を使った家庭料理を心がける。 ・祖父母や親から“我が家に伝わる料理”を積極的に学び、次世代に伝える努力をする。 ・食べ残しをしない。 ・食材は使い切り、料理くず等を出さないよう調理方法を工夫する。	・生産現場の体験や生産者との交流により、農林水産業に対する理解を深める。 ・行事や実習等の体験を通じて、幼児期から地域の食文化に触れる機会を提供する。 ・地元食材や県産食材、郷土料理や伝統料理を給食に取り入れる。 ・給食、お弁当を残さず食べる「もったいない」の習慣を培う。	・生産現場の体験や生産者との交流により、農林水産業に対する理解を深める。 ・農林漁業の体験活動を通じて、地域の食材に対する理解を深める。 ・地元食材や県産食材、郷土料理や伝統料理を学校給食に取り入れ、食に関する指導の生きた教材として学校給食を活用する。 ・家庭に対する啓発活動、情報提供を行う。 ・給食、お弁当を残さず食べる「もったいない」の習慣を培う。 ・食品ロス削減に関する理解を深める。	・農林水産業の多様な体験の機会を提供する。 ・地域行事や共食事業等の機会を活用し地元食材や県産食材を取り入れるとともに、郷土料理を食して伝える機会を提供する。	・農林水産業の多様な体験の機会を提供する。 ・食品廃棄物について、発生抑制と減量化により最終的に処分される量を減少させる。	・農林漁業体験学習に関わる関係者の連携を推進する。 ・食文化や郷土料理の継承に関わる関係者の連携、食の匠等による伝承活動のための環境づくりを推進する。 ・食文化や郷土料理を継承できる人材を育成する。	「古館保育所(各幼稚園・保育所)」として、 ・県内の保育施設のほとんどが畑づくりを保育の計画に取り入れ、野菜の収穫や収穫したものを使用し調理体験を実施している。 野菜の種まき、苗の植え付けから生長を観察し、収穫の喜びを味わい調理して食べる体験は、好き嫌いなく何でも食べる食に対する意欲になっている。 ・食改協、婦人会等の協力を得て、行事食や郷土料理に触れたり一緒に作って食べる機会を持つ。また、給食だよりで行事食や郷土食の紹介をしたり、給食やおやつに取り入れ食べる機会を持つ。 ・給食食材に町産食材を使用する。(産直から仕入れる等) 「いわて生活協同組合」として、 ・産直米交流会を開催。3産地4企画、129人参加 ・生協牛乳ふるさと訪問を開催。親子中心に2企画 85人参加 ・「産直学習・体験会in今松野菜生産組合」を開催。25人参加 ・「産直真崎わかめ学習会」を開催。72人参加 ・産直野菜を使った料理教室等を開催	
2 食文化や食生活の継承								

Ⅳ 地域に根ざした食育の推進

施策	皆さんに期待すること						取組状況	補足(委員)
	家庭	幼稚園・保育所	学校	地域	食品関連事業者	市町村		
1 食育推進運動の展開	・家庭等で食卓を囲む機会を充実させる。 ・親子や世代間におけるコミュニケーションを確保する。 ・買い物、料理、配膳の手伝い、食前・食後の挨拶等により、食に関する基礎を学ぶ。 ・学校や保育所、地域が行う食に関する勉強会や体験的な活動に子どもと一緒に積極的に参加する。	・食育だより、給食展示、給食の試食会等を通じて学校給食や食に関する指導内容等を家庭と共有する。 ・保護者会等を通じて食に関する指導を行う。	・関係機関と連携し、講習会、親子料理教室などの実施に努める。 ・若い世代をはじめとする食育関連のリーダーの育成に努める。	・食育の理解を深め、各事業者の事業活動等特色に応じた食育活動を進める。	・食育を推進するための組織づくりや市町村食育推進計画を策定する。 ・市町村食育推進計画に基づき、学校や保育所、地域などと連携し計画的に食育の施策を展開する。 ・ホームページ、広報等を通じた食育の情報提供を行う。	【事業者団体等】 ・岩手県食育推進ネットワーク会議において、県民の食育への理解と関心を深めることを目的に、食育標語コンクール及び食育推進ポスターコンクールを実施。(県と共催) ・岩手県食育推進ネットワーク会議において、全県的に食育運動を展開することを目的に、食育推進県民大会を開催。(県と共催) 【市町村】 ・食育月間にあわせて食育講演会、食育研修会等を実施。 ・学校で給食だより等による食育指導、調理実習や食育の講演を実施。 ・学校給食で毎月19日の食育の日メニューの実施や食に関する指導を実施。 ・ホームページや各広報誌等で食育を普及啓発。	「古館保育所(各幼稚園・保育所)」として、 ・毎月食事だよりや給食献立表を家庭配布している。 ・家庭で料理のレパートリーを広げられるよう「簡単レシピ集」「子どもの好きな給食メニュー」などを発行している。また、給食の展示も行っている。 ・地域の子育てサークルや、広場等へ給食を提供することで、スタッフや参加者にとって良い刺激となっている。 ・町のファミリーサポートセンター研修で、「保育所の食について」講座の中で知らせた。	
2 市町村や地域における食育の推進								